

経営比較分析表

福島県 泉崎村

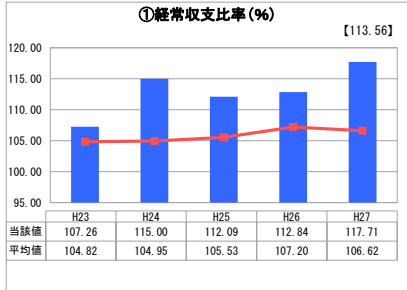
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.92	82.86	3,618

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,675	35.43	188.40
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,454	26.10	208.97

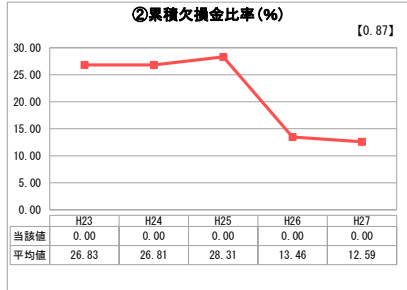
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

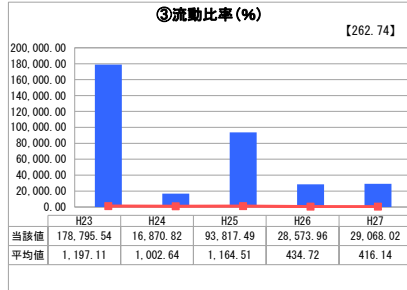
1. 経営の健全性・効率性



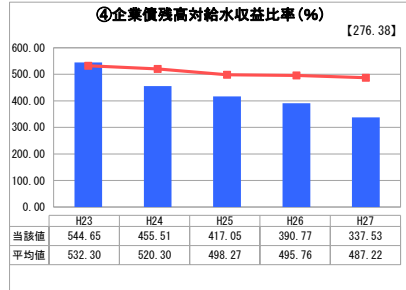
「経常損益」



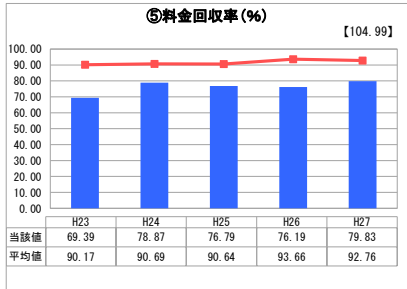
「累積欠損」



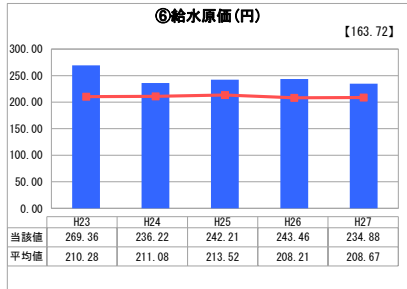
「支払能力」



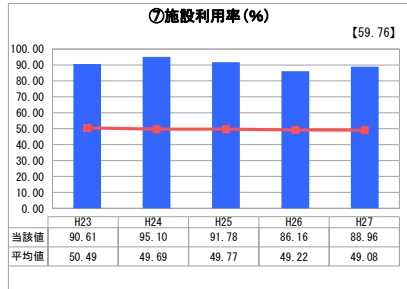
「債務残高」



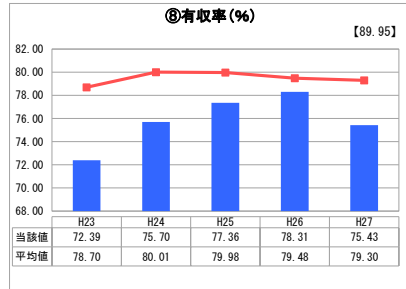
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

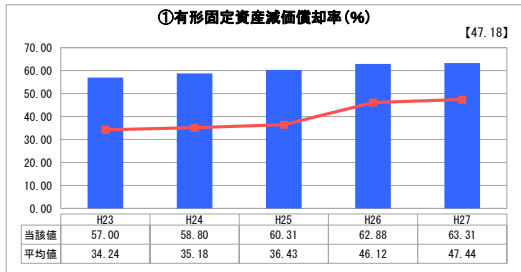


「施設の効率性」

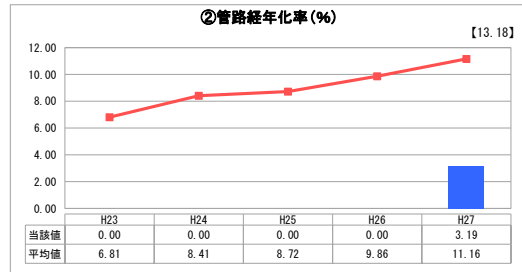


「供給した配水量の効率性」

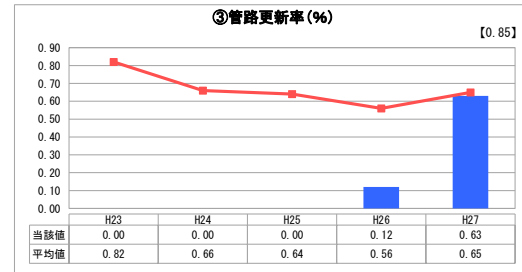
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金もなく、経営自体は非常に安定しており、健全性を保っているとおもわれます。一方で料金回収率が平均より下回っており、給水原価も高いことから、なお一層の経費削減に努めていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

減価償却率が高いのは、村の施策による拡張工事の影響であり、それに伴う一般会計からの補助金ももたらされており、平均を上回っているが、問題はないと思われる。また老朽管の更新については、H26年度に村の財政再建が終わり、H28年度、29年度と更新事業が予定されており、その後も管路更新を行って行く予定であります。

全体総括

当村の水道は、白河地方広域市町村圏整備組合よりの受水で100%まわっており、管路の更新のみを検討すれば、良い状況となっておりますが、10年以内には配水池設備の老朽化も進んで来ると考えられますので、その前に管路の更新事業を終了させ、国の補助金等もないので、留保資金の確保に努めていかなければならない。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。